

令和3年6月28日

## 学校関係者評価委員会 公開資料

(令和2年度)

令和3年6月25日(金) 14:00~16:00

### (1) 教育理念・目標

| 評価項目   | 前回 | 評価 |
|--|----|----|
| 1-1 学校の理念・目標・育成人材像は明確に示されているか                  | 4  | 4  |
| 1-2 学校の理念・目標の実現に向け、特色ある活動が行われているか。             | 4  | 4  |
| 1-3 学校の理念・目標は教職員に共有されているか。                     | 3  | 4  |
| 1-4 学校の理念・目標・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。 | 3  | 3  |
| 1-5 学校の将来構想を描き、先を見据えた中期的構想を抱いているか。             | 3  | 4  |

#### 【説明内容・ご質問・ご意見等】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、リモート授業を一時的に提供せざるをえなかった。また、登校・対面型授業再開後も集団型プログラムや学外連携したプログラムを回避・変更して対応した。その結果、当校が大切にしている人間力を育む教育機会が不十分となり、通常年では見られない言動が目についた。これが教訓となり、人間力を鍛えること、そのために基本的なこと（挨拶・掃除・気配り）を徹底する意識を高めていると感じる。
- ・本校では2005年度より、入学前三者面談（1月～3月）を全入学生対象に実施している。1組につき約1時間、その場で学園の理念・方針などは具体的な事例を交えてお伝えしている。保護者から本音が聞けることも多々あり、非常に有益な時間であると考えている。また、入学後の三者面談も全学科で実施している。また、毎年10月に保護者会・保護者総会、卒業年次には保護者参加の卒業発表会・成果発表会も実施しているため、数多く保護者と接する機会を確保できている。ただし、令和2年度については、保護者会・総会の実施や卒業発表会の実施を断念しており、例年よりも関わりの薄い年度となった。
- ・若い方が自分の意見を持ち、主張する場面が増えてきていると感じる。一方で自己都合の主張が増えているとも感じており、協調性を意識させる教育が企業、学校共に重要である。

(2) 学校運営

| 評価項目                                    | 前回 | 評価 |
|---|----|----|
| 2-1 理念・目標に基づき、学校運営方針が策定され、組織内で共有されているか。 | 3  | 3  |
| 2-2 人事考課制度、給与制度は整備され、共有されているか。          | 3  | 3  |
| 2-3 意思決定システムは確立されているか。                  | 3  | 3  |
| 2-4 学生・保護者の意見・要望を反映した運営がなされているか。        | 4  | 3  |
| 2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。          | 3  | 4  |

【説明内容・ご質問・ご意見等】

・教職員同士はクラウドサービスのドライブを活用して、同一ファイルを共有、共同で編集等を行うようにして、業務効率化を図っている。また、このクラウドサービスのドライブには、学生も全員個人アカウントを持っており、教職員・学生間でもファイルや動画の共有ができる。課題配布・課題提出をドライブ内でもできるようになっており、印刷・配布・回収等の雑務を減らすことができる。またリモート授業では、このドライブの特性を十分に活用している。授業教材のデータ共有だけでなく、リモート授業そのものを配信中に録画も行いアップロードしている。そのため就職活動等で授業をオンタイムで受講できなくても、後から視聴・受講したり、一度受けた授業を復習として再視聴したりできるようになった。ただし、しっかりと活用し、恩恵を受けているのはモチベーションの高い学生に限定されており、他の学生は、教職員からの働きかけ（視聴を強制する、視聴しないとできない課題を出す等）が必要である。

・(委員より質問) 緊急事態宣言解除後もリモートワークを継続している企業がある。学校でもリモート講義の方が優れている点やリモート講義を経験して良かった点などはあるか。

⇒ 講義そのものはやはり、対面型の方が良いと判断している。学生も対面型講義を望む声が多い。

リモート講義を経験して、教職員のパワーポイント等を作成、活用した“目で見て理解させる”講義スキルは向上したと感じる。ただし、学生の想像力（耳で聞いたことを、自分の脳内で映像化する能力）を鍛える点ではマイナスであるかもしれないと感じている。

卒業生を招いての座談会を毎年、複数回実施している。これまでは、県内や近県で勤務している卒業生しか呼べなかった。しかし、リモートで繋ぐ選択肢ができ、遠方の卒業生にも参加してもらえるようになった。これは大きな利点であると感じる。移動にかかる時間やコストが大きい場合、リモートで実施という手法は今後も定着していくと感じている。

(3) 教育活動

| 評価項目   | 前回 | 評価 |
|--|----|----|
| 3-1 教育理念に沿って、各学科の目標・方針が策定されているか。                             | 4  | 4  |
| 3-2 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。                                 | 3  | 3  |
| 3-3 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。      | 3  | 4  |
| 3-4 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。       | 3  | 3  |
| 3-5 関係分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。 | 3  | 3  |
| 3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか。  | 4  | 4  |
| 3-7 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。                             | 3  | 3  |
| 3-8 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。                          | 4  | 4  |
| 3-9 関連業界や外部とのネットワーク構築に優れた教員（本務・兼務含む）を確保し、外部との良好な関係を築けているか。   | 3  | 3  |
| 3-10 新たな知識・技術等を修得するための研修や外部講座に教職員を派遣しているか。                   | 3  | 3  |
| 3-11 職員の能力開発のための研修・勉強会等が行われているか。                             | 3  | 3  |

【説明内容・ご質問・ご意見等】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大は、当校においては特にエアライン学科に大きな変化を与えている。令和2年度卒業生は全員、航空関連企業に就職内定を獲得できたが、勤務開始時期が9月以降となっているケースが多い。また、令和3年度卒業年次生は1年次のインターンシップを実施できず、航空業界求人数も減少しているため、航空業界を目指すことに主眼を置けない環境へと変化した。時代、状況に左右されず必要な学びとして、英語・英会話の重要度が高くなってきている。現状は日本在住歴の長い外国籍講師を中心に授業提供を行い、留学歴のある常勤講師がサポートする体制である。今後は常勤講師が中心となって授業提供・特色ある独自プログラムの開発を行っていく予定である。
- ・令和2年度はキャリア教育、職業教育の強化を目的とした新科目の提供が始まった年度であった。特に公務員学科は入学生数の増加と比例して、企業就職を希望する学生が増加している。そのニーズに対応するために、早い時期から科目提供を始めた。今後もこの流れは変わらないと予測しており、公務員試験、公務員就職に対応しつつも、そこに特化し

ないカリキュラム編成（提供バランス）を模索している。またブライダル・ホテル学科でも業界以外への就職を希望する学生が増えた。令和3年度からキャリア支援センター所属職員を増員して対応している。

- ・インターンシップを公務員学科以外は毎年実施させていただいていた。位置づけと実施時期が学科によって相違しており、2種類に分けられる。

①1年時実施（秋・冬）エアライン学科、ブライダル・ホテル学科

その職業の実態を体験するタイプ。2か月～4か月の長期型

②2年時実施（夏）メディカルスタッフビジネス学科

学校で学んだ知識・スキルを現場で試す場とするタイプ。2週間程度の短期型

令和2年度は航空業界でのインターンシップを実施することができなかった。その代わりに、岡山空港の職員による授業を、延長・追加で実施。また、株式会社 JAL スカイ仙台の社長 高橋様にお越し頂き、講演をして頂いた。

ブライダル・ホテル学科は、例年と異なり、岡山県内と周辺地域（福山等）に限定したインターンシップ実施となった。インターンシップが実習の主軸であることに変わりはないが、インターンシップ以外の実習カリキュラムの開発も必要となっている。令和3年度は学科主催イベントを企業様と連携して実施する予定である。

- ・公務員学科では、例年行っていた官庁訪問を実施できなかった。一部の希望者は、自治体や一般企業のインターンシップに参加をしているが、カリキュラムとして全学生への導入はできていない。近年は、一般企業への就職希望者の割合も徐々に増えてきている。また公務員希望者であっても、社会に出る意識づくりや幅広い視野の育成のため、令和3年度は、公務員学科の学生に向けた就職プログラムを定期的実施する。

- ・インターンシップでの学びを整理・定着させることを目的に、インターンシップ発表会をブライダル・ホテル学科、メディカルスタッフビジネス学科で行っている。特にブライダル・ホテル学科発表会には、11社ものインターンシップ受け入れ企業様におこしいたごき、コメント・評価をいただいた。

- ・（委員より）今後、再度の社会情勢悪化があつたとしても、インターンシップは続けていくべきだと感じる。当然、受け入れも積極的に行うので、遠慮なく依頼して欲しい。

#### (4) 学修成果

| 評価項目                            | 前回 | 評価 |
|---------------------------------|----|----|
| 4-1 就職率（公務員試験合格率含む）の向上が図られているか。 | 3  | 3  |
| 4-2 資格取得率の向上が図られているか。           | 4  | 4  |
| 4-3 退学率の低減が図られているか。             | 3  | 3  |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。            | 3 | 3 |
| 4-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 | 3 | 3 |
| 3-11 職員の能力開発のための研修・勉強会等が行われているか。           | 3 | 3 |

【説明内容・ご質問・ご意見等】

学修成果に対する取り組み、問題点など

・就職サポート重点的項目

- 企業（医療機関）研究のサポート
- 履歴書、エントリーシート作成のサポート（ヒアリング・添削）
- 過去の試験情報の提供（先輩の受験報告書閲覧）
- 面接指導（模擬面接の実施）
- 個別面談（悩みの相談など）

これらを、各学科担任や担当講師、キャリア支援センター職員が協同して行っている。近年の傾向では、自学科の教職員以外にも面接練習を依頼する学生が増え、学園一丸となって就活サポートを行っている。重点項目の中でも特に個別対応が時間・回数共に増加傾向である。本校の特色の一つとして「パーソナリティー診断」ツール = PSA の活用が挙げられる。2005 年より全ての学生が入学時・進級時・卒業時に診断を受けデータ化している。個別に対応する際には特に学生の情動パターンに着目して、その学生が受け入れやすい言い方や接し方を意識して効果を高めている。

例：慎重家 = 不安が強く、特に他人の目を気にするタイプ と 冒険家 = 他人はどうであれ、自分の思う通りに行動したいタイプとでは、同じ件で指導を実施する場合でも、接し方や伝え方を変える方が効果を生みやすい。

- ・登校では就職率 100%が基準値である。前年は達成できたが、令和2年度は未達成となった。（2名が年度内で就職未内定、活動継続中）また、例年、就職非希望者が1割～2割弱存在する。（公務員試験を再受験する、精神的に苦しい状態であるためアルバイトで様子見を行う等が主たる理由）令和2年度も約2割が就職非希望であった。この数値を減らしていくことも課題である。
- ・公務員学科では、放課後の自主居残り学習、早朝登校学習、休日に集まったの教え合い学習等が文化として定着している。令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、学生同士集まったの時間外学習や教え合い学習が困難な時期もあった。また、5月に実施される予定だった公務員試験が中止や延期される中、学生のモチベーション維持に苦労した。しかし、最終的な合格率は一次試験で例年並、最終合格率は近3年では最高値を記録できている。
- ・退学率低減は最重要課題の一つである。特殊事情として、公務員ビジネスコース（2年課程）では1年時の退学者が多くなる。これは1年時から公務員採用試験を積極的に受験し、採用になった場合、2年生に進級することなく公務員として勤務することになるため

である。(令和3年度より県から認可を受け、2年課程1年時合格者は1年課程に編入、卒業扱いとなる)その特殊事例を除いて考えると、退学理由の多くは金銭的理由で継続困難な場合、意欲の減退・精神的不調の場合である。前者には分割納入方法の相談や、学費ローンの紹介、後者には担任による個別面談等で対応している。令和2年度は特に、エアライン学科、ブライダル・ホテル学科で意欲の減退(業界就職が見込めない等の理由)が見られた。学科担当者の粘り強い折衝により、ごく少数の退学で留めることができた。また、1名は退学を強く申し出てきたが、学校からの提案を受け入れ、学科を変更(エアライン学科からメディカルスタッフビジネス学科に所属変更)して学業を継続している。

- ・近年の卒業生が頻繁に訪ねてきてくれたり、卒業生を招いての講演、講義を行ったりするため、新入社員や若手社員側から見える不足点の聞き取り量は豊富である。令和2年度は卒業生年間来訪者数がのべ102人、前年比で58.6%に留まった。しかし、コロナ禍でもこれだけの卒業生が訪れてくれていることが、当校の大きな強みである。今後、キャリア支援センターを中心に、企業側から見える不足点を聞き取っていくことで、社会状況に応じたカリキュラム作成・見直しが可能となる。
- ・(委員より) パソコンスキルの修得は不可欠。特に近年入社してきている世代の傾向としてスマホ活用スキルは高いが、パソコン活用スキルは低いという方が多い。そのため、電子メールで連絡を行っても反応が遅く、スマホで見られるLINEアプリで連絡を取らないと、スピーディーな情報共有ができないという問題が発生している。今後、小・中・高でタブレットやパソコンを使い慣れた世代が社会に出てきた際に、現世代がパソコンスキルの谷間の世代になる恐れがある。(実際、現在の高校1年生世代は、1人1台電子機器が配布されていて、授業等の日常で活用する機会が多く、上級生よりも使い慣れている、使いこなしていると感じる)アプリケーション活用だけでなく、タイピングスキルやエクセルの関数活用など、磨いていく必要がある。

#### (5) 学生支援

| 評価項目                         | 前回 | 評価 |
|------------------------------|----|----|
| 5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。  | 3  | 3  |
| 5-2 学生相談に関する体制は整備されているか。     | 4  | 4  |
| 5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 | 3  | 4  |
| 5-4 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか。 | 3  | 3  |
| 5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか。   | 3  | 3  |

|                                   |   |   |
|-----------------------------------|---|---|
| 5-6 学生の生活環境への支援は行われているか。          | 3 | 3 |
| 5-7 保護者と適切に連携しているか。               | 4 | 4 |
| 5-8 卒業生をフォローアップする体制が整備され、機能しているか。 | 3 | 3 |
| 5-9 同窓会が組織化され、活発に活動をしているか。        | 3 | 3 |
| 5-10 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。   | 3 | 3 |

【説明内容・ご質問・ご意見等】

学生支援に対する取り組み、問題点など

- ・学生への支援を学科教員が主体となって行っている。就職活動支援に対して、学科教員だけではなく、キャリア支援センター職員も対応するケースが増えたことで、学生への支援は以前よりも手厚くなっていると判断する。不登校など心が弱っている学生への支援も増えてきており、対面式個人面談を適宜行ってサポートしている。新型コロナウイルスの感染拡大により、業界就職の機会が失われた学生も退学を選ばず、別業界に切り替えて就職活動を行っているのは、このようなサポート体制の影響が大きいと感じている。今後はメンタルヘルスの知識を持った教職員を増やすことで、よりきめ細かな対応ができるようにしていく。

(6) 教育環境

| 評価項目   | 前回 | 評価 |
|--|----|----|
| 6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。            | 4  | 4  |
| 6-2 学内外の実習施設、インターンシップ、外部研修等について十分な教育体制を整備できているか。 | 3  | 3  |
| 6-3 防災に対する体制は整備されているか。                           | 3  | 3  |

【説明内容・ご質問・ご意見等】

- ・インターンシップや外部実習をカリキュラムに組み込んでいる。令和2年度は中止・縮小等になった事例が多数あり、学生達が経験を積む新たな場も必要となった。令和3年度はエアライン学科とブライダル・ホテル学科の2学科で、イベントをそれぞれ8月に予定している。保護者会から予算を頂き、企業様のご協力を得ながら、「イベントプランニング」という科目で、企画立案・準備・実行の全てを学生中心で行っている。

(7) 学生の受入れ募集

| 評価項目                             | 前回 | 評価 |
|----------------------------------|----|----|
| 7-1 学生募集活動は、適正に行われているか。          | 3  | 3  |
| 7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 | 3  | 3  |
| 7-3 学納金は妥当なものとなっているか。            | 4  | 4  |

【説明内容・ご質問・ご意見等】

- 各学科において、募集活動に対する意識や企画力・運営力などさらに高めていく必要がある。また、観光業界が打撃を受けている中で、エアライン学科の募集は当面苦戦することが予想できる。学校・学科本来の学びや成長の喜びをいかに伝え、共感いただき、出願まで繋げていくかが重要なポイントとなっている。対面型のオープンキャンパスや高校内で実施するガイダンスだけでなく、SNS（毎日記事発信）やWEB広告にも予算を割り当て、高校生や保護者にビーマックスの名前と特徴を伝える努力を積み重ねている。特に動画配信の訴求力が年々高まっているため、行事だけでなく、日常の授業や些細なことでも動画撮影を行っておくことに尽力している。
- 学生募集活動はオープンキャンパス開催、学科イベント举行、高校訪問・高校内ガイダンス授業への参加等を中心に行っている。入学生は高校の先生からの紹介、在校生・卒業生・保護者等の口コミで本校を認知し、入学したケースが非常に多い。在校生・卒業生と真摯に向き合うことが最大の広報活動である。一方で、新たな方式での広報活動も模索している。（新型コロナウイルス感染拡大により、一時的にウェブを活用した広報活動に頼らざるをえない状況になった。）また、高校在学時からの大きな変化・成長に驚きと喜びを持って当校を支持して下さる高校が増えてきている。

(8) 財務

| 評価項目                          | 前回 | 評価 |
|-------------------------------|----|----|
| 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。 | 4  | 4  |
| 8-2 財務について会計監査が適正に行われているか。    | 4  | 4  |
| 8-3 財務情報公開の体制整備はできているか。       | NA | 4  |

【説明内容・ご質問・ご意見等】

- 今年度より財務情報の公開を行う予定で準備している。



(9) 法令等の遵守

| 評 価 項 目                           | 前回 | 評価 |
|-----------------------------------|----|----|
| 9-1 法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。 | 4  | 4  |
| 9-2 個人情報に関し、その保護のための政策がとれているか。    | 3  | 3  |
| 9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。        | 3  | 4  |
| 9-4 自己評価結果を公開しているか。               | 2  | 4  |

【説明内容・ご質問・ご意見等】

- ・自己点検・評価報告書の公開は今年度より実施する予定で進めている。

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評 価 項 目   | 前回 | 評価 |
|---|----|----|
| 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。             | 4  | 3  |
| 10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。                      | 4  | 4  |
| 10-3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。 | 4  | 4  |

【説明内容・ご質問・ご意見等】

- ・全学科、社会貢献活動がカリキュラムに組み込まれている。それ以外も関係施設からの委託や警察と連携した企画等を学生に提示し、地域でのボランティア活動を奨励している。多くの学生が積極的に参加しており、ボランティア熱は高いと感じる。  
令和2年度については、外部との交流・接触がある社会貢献活動の授業提供を自粛した。以前の形式で再開できることが望ましいが、新しい生活様式に対応する形式での実施も、今後は行っていく予定である。